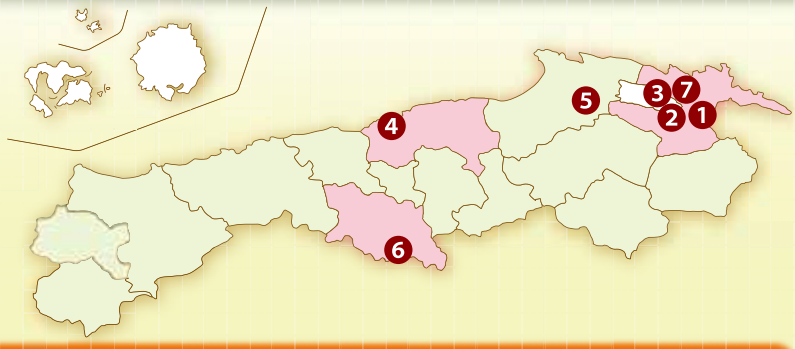


A map of the area around Matsuyama Station. The main line (山陽本線) is shown as a black line with white segments. The Sagami Line (相模線) is shown as a red line. The Sagami River (相模川) is shown as a blue line. The map includes labels for various locations: 朝野小 (Asano), 新井川 (Shinikawa), 山陽本線 (Sanyo Main Line), 9 (Route 9), 石屋古墳 (Ishiya Kofun), 大橋川 (Ohashi River), 大橋川 (Ohashi River), 松江 (Matsuyama), 倉岡平池 (Kuraoka Heiichi), 松江IC (Matsuyama IC), 河東中 (Kawadochi), 山代二子塚古墳 (Yamashiro Futsuza Kofun), 出雲国分寺町 (Izumo Kofunji Town), and 松江道路 (Matsuyama Road).

発掘調査 ガイド



出雲地方東部最大級の前方後円墳の実像に迫る

②魚見塚古墳 (松江市朝酌町) ・ ③東淵寺古墳 (松江市大庭町)

県教育委員会の考古基礎研究事業で、出雲地方東部最大級の前方後円墳2基の学術調査を実施しました。魚見塚古墳は、大橋川の矢田の渡し近くに所在する全長約62mの前方後円墳で、9月から12月にかけて調査しました。古墳造成時に掘られたと考えられる溝の底から、蓋のある高坏が2セットほぼ完全な形で出土し、墳丘築造時の儀礼を示す遺物として注目されます。

東淵寺古墳は、茶臼山南西に所在する大型の古墳です。大正14年発行の『島根県誌』で前方後円墳とされていますが、現在は古墳の詳しい形や規模は不明でした。今回の調査で墳裾と墳丘の残存状況が確認され、前方部の付く墳丘であることはほぼ確実と見られ、全長60m以上の前方後円墳である可能性が高いと思われます。



魚見塚古墳後円部盛土の状況(写真左が前方部)



東淵寺古墳発掘調査現地説明会の様子



■問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL0852-36-8608

水田の3 m下から3000年前のムラが出現！

④古屋敷遺跡 (大田市仁摩町)

一般国道9号静間仁摩道路の建設に伴い6月から2月にかけて調査しました。遺跡は潮川沿いの平野部最奥に立地し、弥生時代の水田跡や縄文時代の生活の跡が何面も確認されました。このうち、縄文時代晩期(今から約2500年～3000年前)の生活面では、63基もの炉跡や木棺墓、ゴミ捨ての穴など当時の生活の様子を示す遺構が多数見つかりました。

出土品も多彩で、土器では煮炊きに使われた土器の他に、赤く塗られた土器も見つかっています。中でも右下の写真の彩文土器には、東日本に特徴的な文様がベンガラで鮮やかに描かれ、東西日本の交流を示す資料として注目されます。石器では、狩猟や農耕の道具が出土し、木棺墓からは副葬品と見られる緑色凝灰岩製の石鏃も出土しました。その他、雑穀や動物の骨など当時の食生活がうかがえる資料もあります。

古屋敷遺跡の発掘調査は平成26年度も継続して行います。

■問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608



遺跡全景



木棺墓



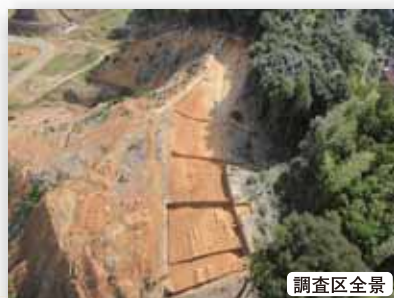
彩文土器

奈良時代に造られた幅9 mの古代山陰道を発見！

⑤杉沢遺跡 (出雲市斐川町)

斐川中央工業団地(仮称)の造成工事に伴い、平成24年7月より弥生時代の住居跡を初め古墳時代後期の横穴墓群、奈良時代の道路遺構などを調査しました。

道路遺構は、標高25mの丘陵の尾根上に道路幅9mに造成し、両側に側溝、路面の一部には波板状凹凸面が認められました。また、この遺構につながる道路跡は、丘陵上に延長が東西1 km以上あり、規模では全国にも例がなく貴重な遺構です。この遺構は、奈良の都から石見国を結ぶ古代山陰道の一部と考えられます。



調査区全景



調査区近景

■問い合わせ：出雲市文化財課 (出雲弥生の森博物館) TEL 0853-21-6893

確認！含銀鉛の製錬に関わる遺構を多数

⑥床屋製錬遺跡 (邑智郡邑南町)

久喜銀山遺跡内に所在する遺跡で、「久喜・大林銀山遺跡調査事業」の一環として調査を実施しました。「床屋」という地名は、「吹屋」と同じく製錬を行った場所を示す名称と考えられます。「床屋千軒」の伝承もあり、この地で採掘や製錬に関わる多くの人々が居住した時期があったものと想像できます。

これまでに約4000㎡の調査範囲から約80基の含銀鉛の製錬に関わる遺構を確認、製錬前に鉱石中の硫黄分の除去等を行った「焼窯跡」と考えられます。江戸期の陶磁器片がわずかに出土していますが遺跡の年代を決定できるものではありません。また、カラミ(非鉄金属を製錬する際に生じたカス)の分布する箇所もありますが「製錬炉跡」の特定には至らず、平成26年度も引き続き調査を実施する予定です。



焼窯跡の断面(4基並列)



焼窯跡(斜面下方の石組は通風口)

■問い合わせ：邑南町教育委員会 TEL 0855-83-1127

江戸時代前期から中期の与力屋敷跡

⑦松江城下町遺跡 [南田町134-1] (松江市南田町)

城山北公園線(通称大手前通り)拡幅工事に伴い平成25年11月から発掘調査を行っています。松江藩主松平氏の筆頭家老大橋茂右衛門の与力(家臣)屋敷にあたること、城下町絵図で判っていましたが、調査を行ったところ、非常に良好な状態で与力屋敷跡が残っていることが確認できました。江戸時代前期から中期にかけてのものと考えられ、幾度も火災に遭いながら、その都度、建て替えを行っていたことが判明しました。また、火災の後始末で捨てられた家財道具も大量に出土しました。屋敷の床下からは、地鎮具として埋められたと思われる木桶がいくつも発見されました。



見つかった与力屋敷跡



地鎮具と思われる曲物



■問い合わせ：松江市教育委員会文化財課 TEL 0852-55-5284